

出向く営農レポート

～苗の定植時の高温対策について～

訪問日:10月1日



中部営農センター
伊藤 和成

今回は、アグリスクール卒業生の篠ヶ瀬美知子さんの圃場に訪問しました。農薬をなるべく使わない栽培方法で多品目の野菜を日進グリーンセンターに出荷しています。

プチヴェール®やハクサイ、スティックセニョール、キャベツなどの植付けについて相談があり、10月上旬はまだ暑かったため、高温時の苗の定植で重要な2つの対策を指導しました。



①防虫ネットの活用

防虫ネットは虫の飛来を防いだり、強風で苗同士が擦り合っでてしまう傷や、強い雨での土跳ねで病原菌に感染するリスクを抑えられます。今回は、小さな害虫の侵入を防ぎつつ風が通る網目サイズ0.8mmを提案しました。

②バイオスティミュラント(BS)資材を使った根張りの向上

高温で乾燥している土では根の成長が妨げられ、水や養分を十分に吸収できないため、植物の生育促進やストレス耐性の強化を促し、作物の品質・収量を向上させるソイルサプリエキスの使用を提案しました。

散布後2～3日は根張りのため畑を乾燥させないことが大切です。また、定植後も1週間に1回程度定期的に葉の表裏にしっかり葉面散布することで更なる根張りを促します。

近年、11月～12月にキャベツとブロッコリーの黒すす病が多発しています。葉や茎が黒いすすのようなカビで覆われてしまう病気で、気温20～25℃で降雨や強風により発生が助長されます。胞子が風によって病状が拡大するため、早期発見、早期撤去が重要です。



ブロッコリーの葉の黒すす病の症状

ブロッコリーの
黒すす病
対策

アミスター20フロアブル

- 希釈倍数: 2000倍
- 使用時期: 収穫前日まで
- 使用回数: 3回以内



アフエットフロアブル

- 希釈倍数: 2000倍
- 使用時期: 収穫前日まで
- 使用回数: 3回以内